

FY17 第3四半期
決算説明資料

2018年1月31日
東京特殊電線株式会社

1. 決算概要	P.02
2. 配当金・業績予想	P.06
3. 参考資料	P.08

	FY16 3Q	FY17 3Q			
	実績	実績	増減	増減率	増減要因
売上高	11,752	14,254	+2,501	+21.3	
売上原価	8,504	10,430	+1,926	+22.6	
売上総利益	3,248	3,823	+575	+17.7	
販売費及び一般管理費	1,650	1,654	+3	+0.2	
営業利益	1,597	2,169	+572	+35.9	
経常利益	1,659	2,157	+497	+30.0	
税引前利益	1,356	2,078	+721	+53.2	特別利益 +293 (22→315) 特別損失▲69 (▲325→▲394)
当期純利益	1,190	1,570	+379	+31.9	法人税等調整額 ▲257 (284→26)

(単位:百万円・%) ※1 税金等調整前四半期純利益 ※2 親会社株主に帰属する四半期純利益

売上高は、14,254百万円となり、前年同期比+2,501百万円(+21.3%)の増収となった。

売上高に含まれる為替変動による影響額 +527百万円

(分野別：電線・ヒータ分野 +242百万円、デバイス分野 +285百万円)

電線・ヒータ分野は、鉄道ケーブル及び三層絶縁電線が堅調、メガトルクモータ、スマートフォン用インダクターに使用されるリボン線等が好調となった結果、前年同期比+12.7%の増収となった。

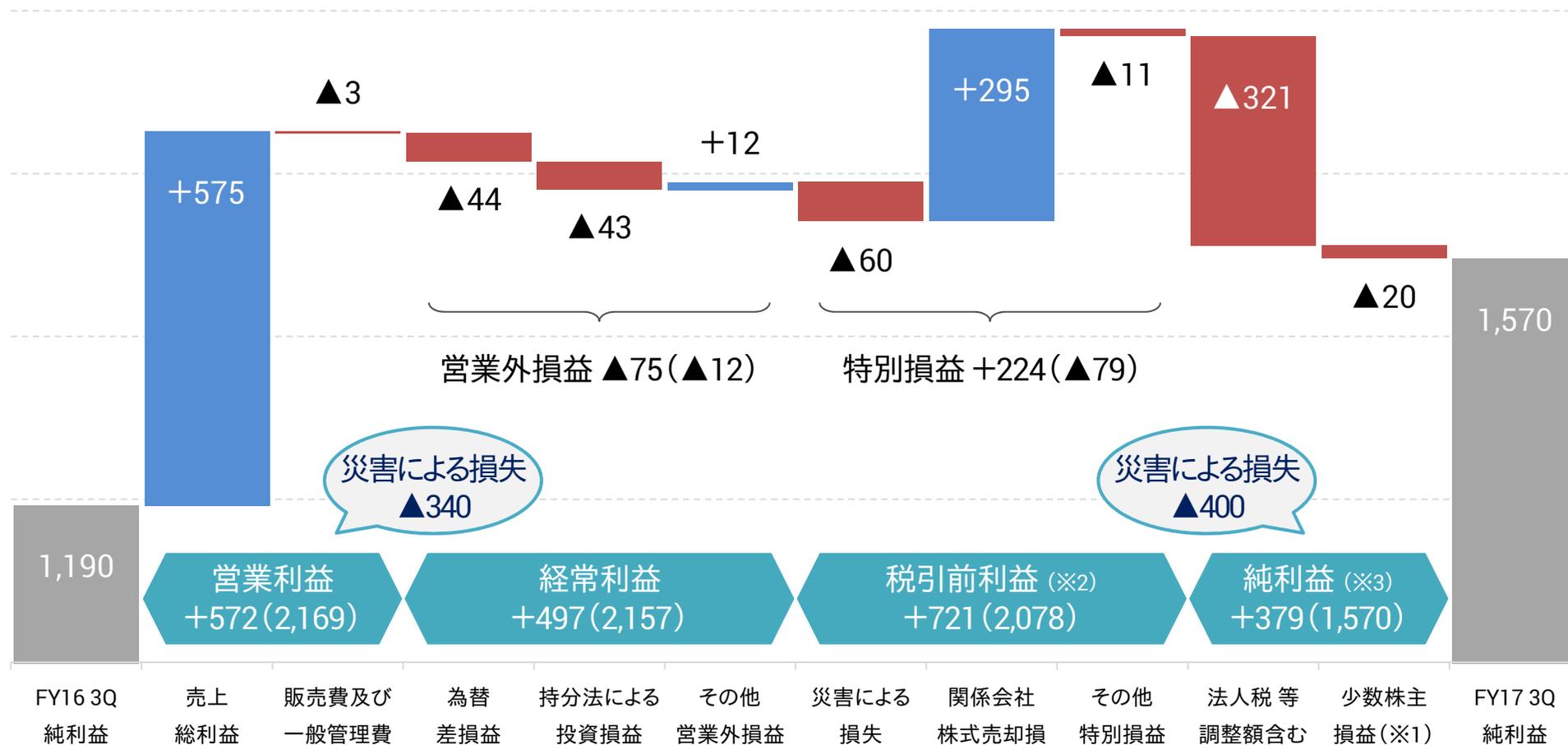
デバイス分野についても引き続きプローブ、ウイスカット、フレキシブルフラットケーブルが好調に推移しており、前年同期比+40.2%の増収となっている。

	FY16 3Q	FY17 3Q		
	実績	実績	増減	増減率
売上高	11,752	14,254	+2,501	+21.3
電線・ヒータ分野	7,987	9,001	+1,014	+12.7
デバイス分野	3,663	5,136	+1,473	+40.2
その他分野	102	118	+16	+15.7

(単位:百万円・%)

1-03. 当期純利益(※3) 変動要因(前年同期比)

| 災害による損失は、連結子会社(インドネシア)での類焼の影響による。
 | 持分法による投資損益・関係会社株式売却損・法人税等調整額の減少については、前年度に実施した
 関連会社株式の売却による。

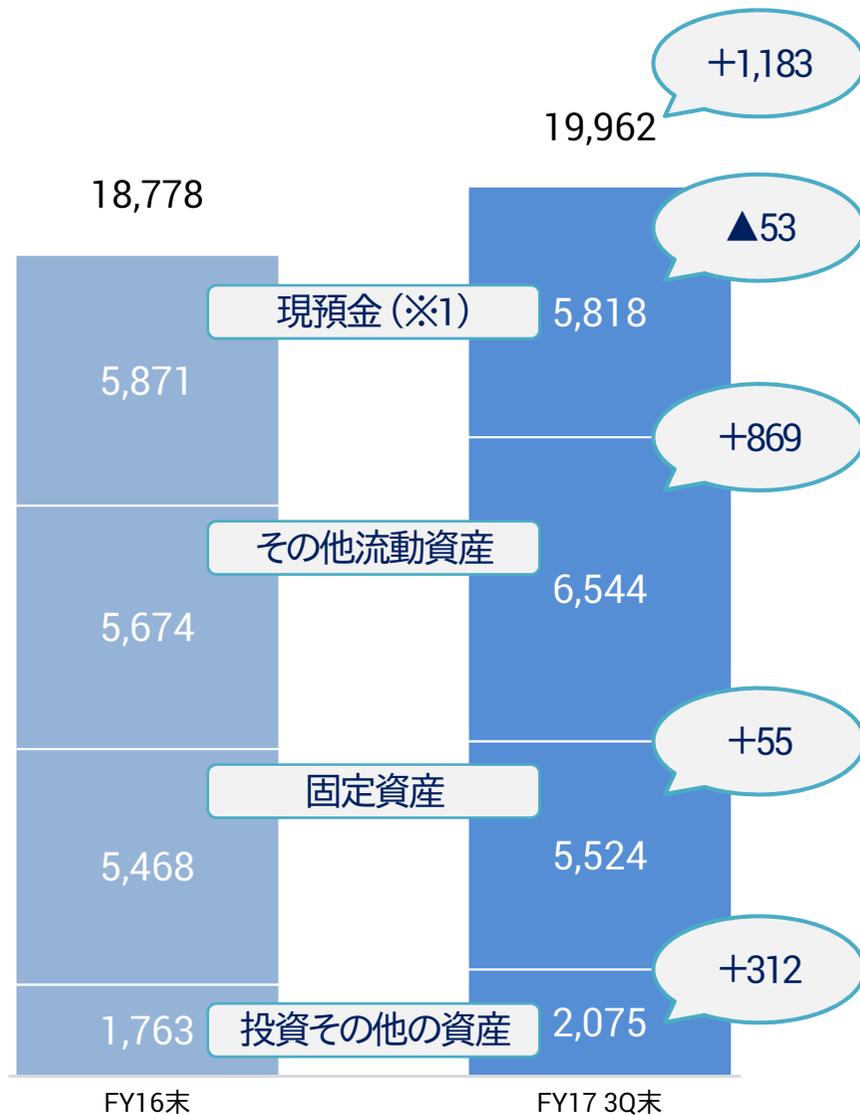


(単位:百万円) ※ 括弧内はFY17 3Q実績を表示 ※1 非支配株主に帰属する四半期純利益 ※2 税金等調整前四半期純利益 ※3 親会社株主に帰属する四半期純利益

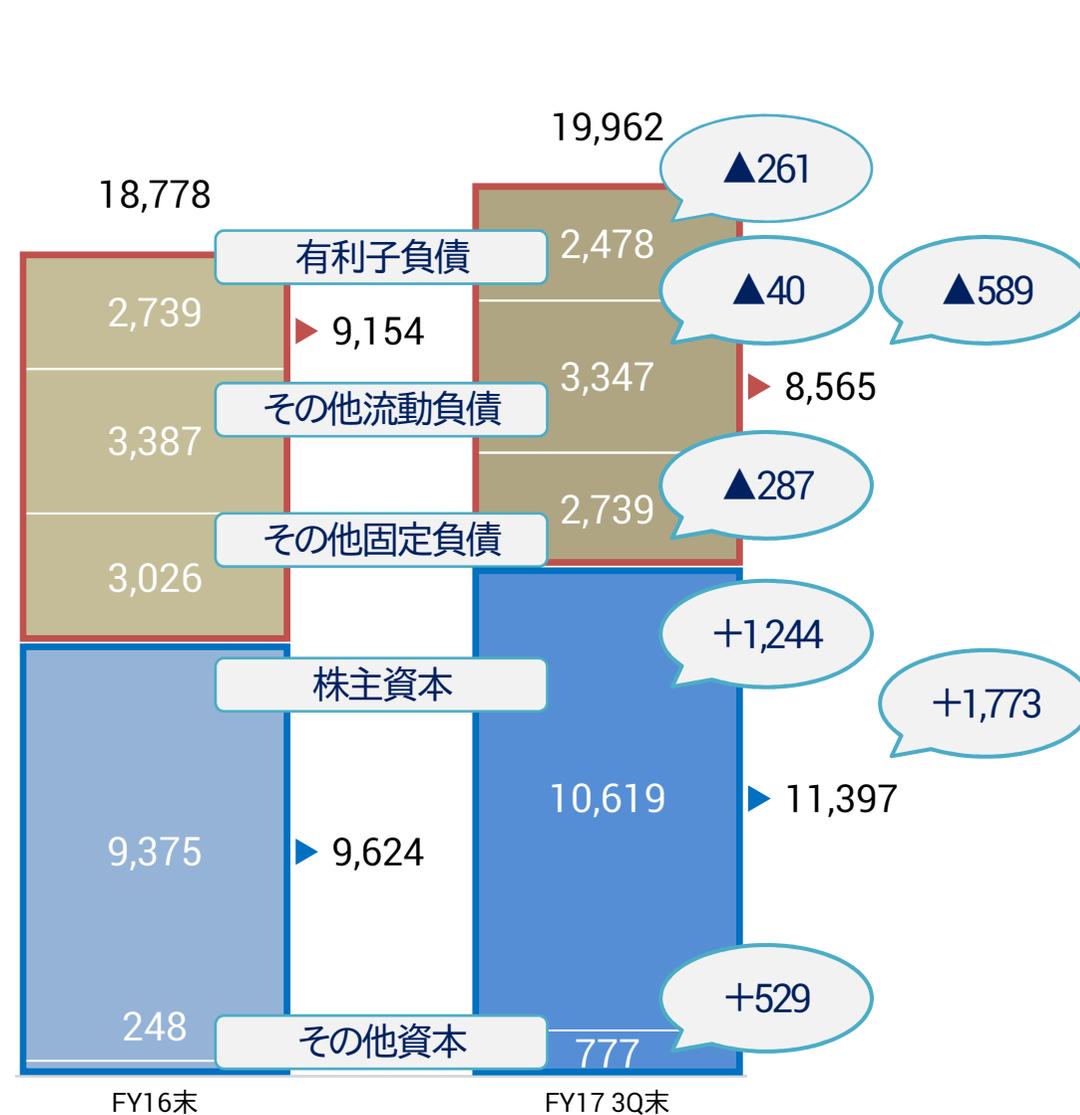
1-04. 貸借対照表

TOTOKU

資 産



負債・資本



(単位:百万円) ※ 自己資本比率は前年度期末比 +6.4ポイントの52.9% ※1 親会社の金融子会社である古河ファイナンス・アンド・ビジネス・サポート(株)に対する預け金を含む ※2 Net有利子負債は▲208百万円

	年間配当金			配当金総額 (百万円)	配当性向 (%)
	中間	期末	合計		
FY15	—	30.0	30.0	203	17.7
FY16	10.0	30.0	40.0	271	12.1
FY17	20.0	—	—	—	—
FY17 予想	—	40.0	60.0	—	22.3

(単位:円、銭)

	今回予想	FY16			前回予想		
		実績	前年度比	増減率	公表値	前回比	増減率
売上高	18,700	16,273	+2,426	+14.9	18,000	+700	+3.9
営業利益	2,550	2,019	+530	+26.3	2,100	+450	+21.4
経常利益	2,530	2,089	+440	+21.1	2,090	+440	+21.1
当期純利益(※1)	1,830	2,252	▲422	▲18.7	1,430	+400	+28.0

(単位:百万円・%) ※ 当期純利益(※1)が前年度比で減少している要因につきましては、前年度に税効果会計の区分変更があり、特別事項として繰延税金資産を大きく積み増した事によります。

上記、予想に含まれる連結子会社(インドネシア)類焼による影響額につきましては、下記となります。

	FY17 3Q 実績	FY17 4Q 見通し	FY17
営業利益	▲340	▲103	▲443
特別利益	314	—	314
保険金収入	314	—	314
特別損失	▲374	—	▲374
棚卸損失	▲157	—	▲157
固定資産損失	▲105	—	▲105
復旧に係る一時費用	▲111	—	▲111
当期純利益(※1)への影響額	▲400	▲103	▲503

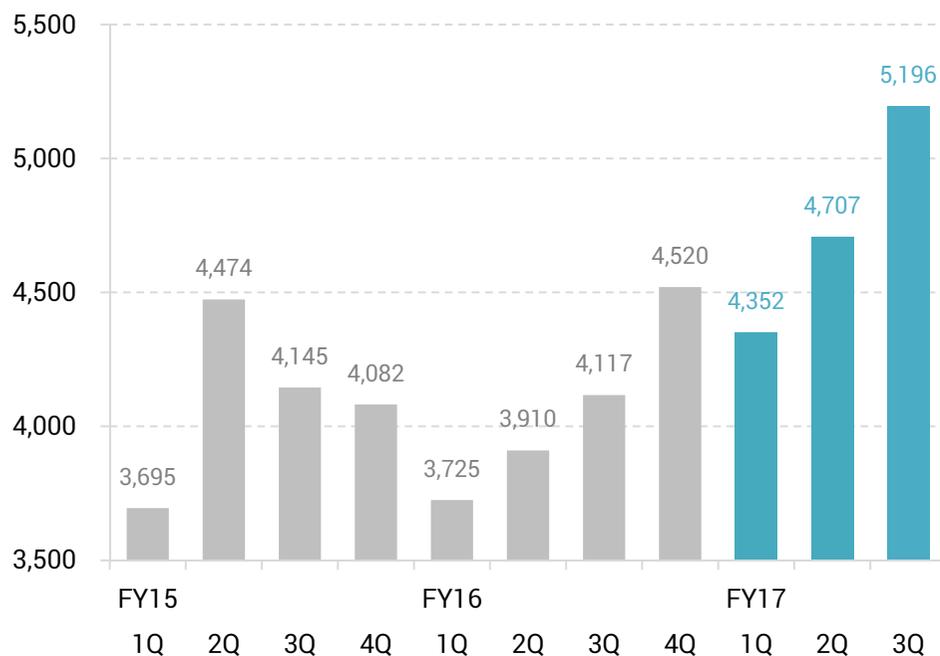
(単位:百万円) ※1 親会社株主に帰属する四半期純利益

売上高は、14,254百万円となり、前年同期比+2,501百万円(+21.3%)の増収となった。

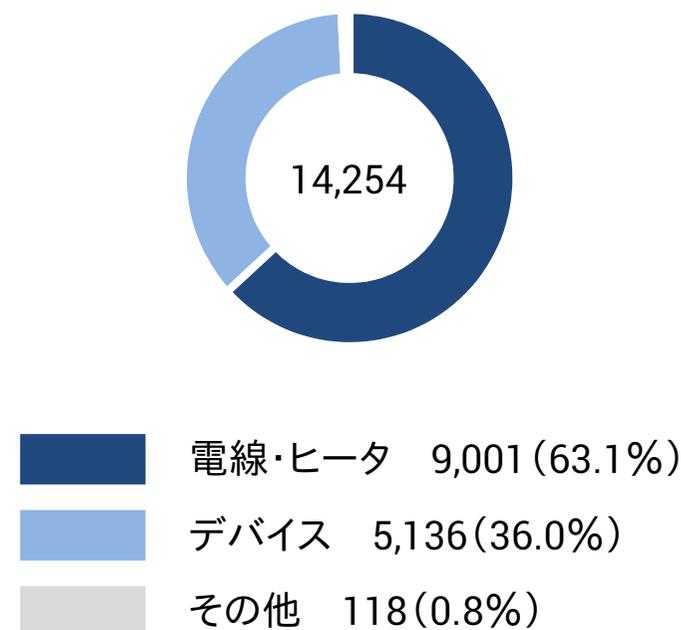
電線・ヒータ分野は、鉄道ケーブル及び三層絶縁電線が堅調、メガトルクモータ、スマートフォン用インダクターに使用されるリボン線等が好調となった結果、前年同期比+12.7%の増収となった。

デバイス分野についても引き続きプローブ、ウイスカット、フレキシブルフラットケーブルが好調に推移しており、前年同期比+40.2%の増収となっている。

売上高（百万円）

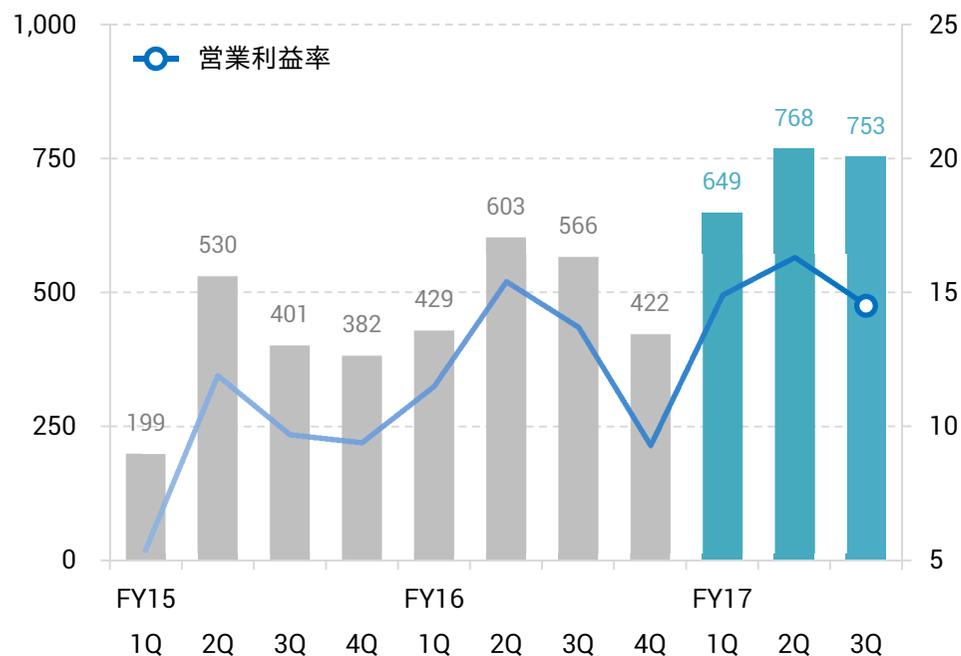


売上高割合（百万円）

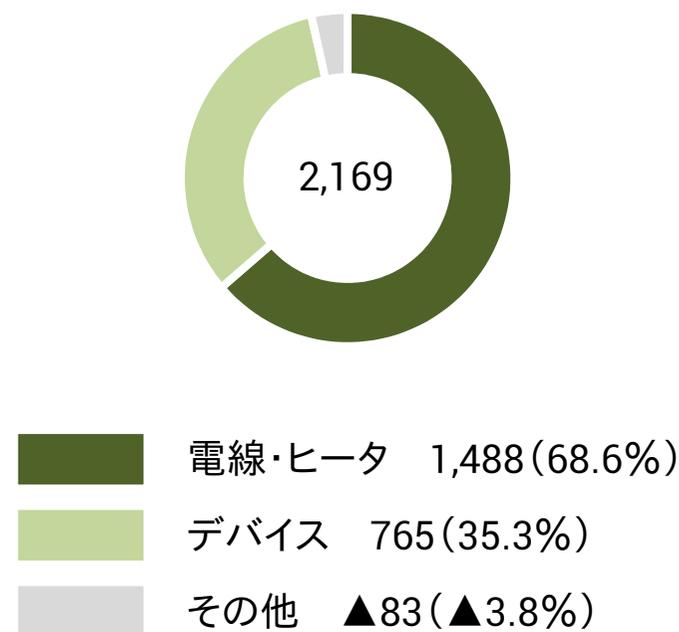


連結子会社（インドネシア）での類焼により▲340百万円の影響を受けたものの、売上高での増収に加え、収益性の高い製品が伸長した事、生産性向上や原価低減が寄与し、原価率の悪化が▲0.8%に留まった為、前年同期比+35.9%の増益となっている。

営業利益・利益率（百万円・%）

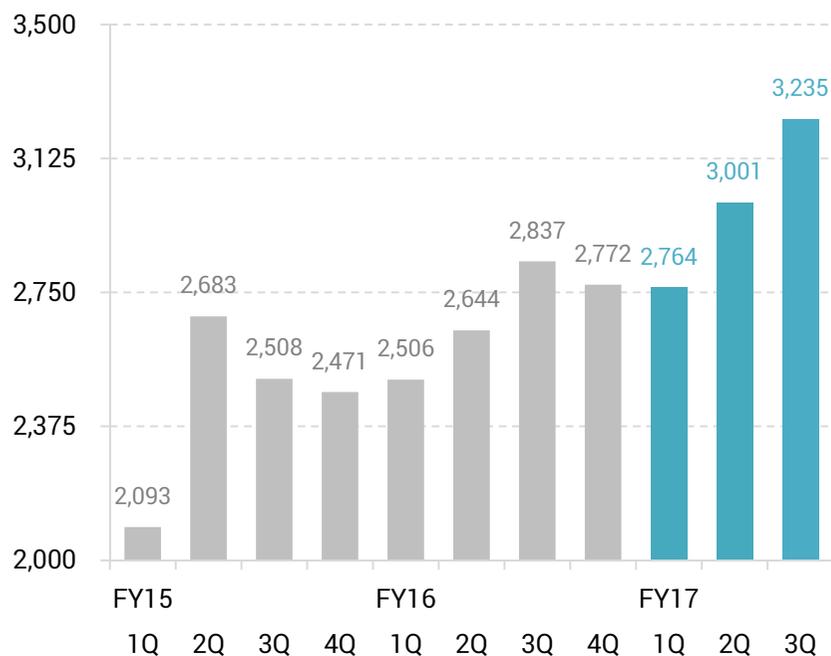


営業利益割合（百万円）

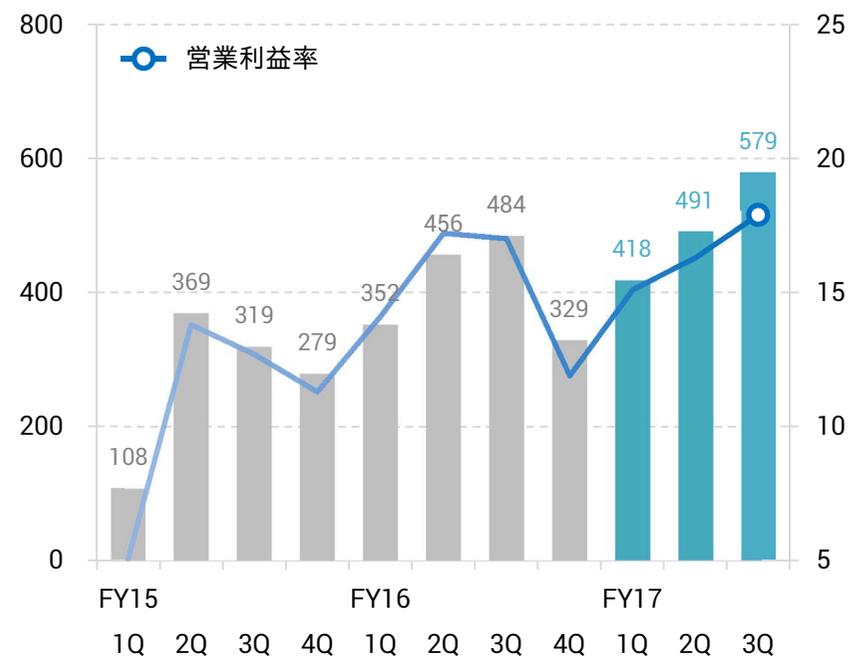


- 売上高は、電線分野にて鉄道ケーブルやスマートフォン、PCの電源トランスに使用される三層絶縁電線が堅調な推移となった。
- 営業利益は、銅価格の高騰（国内建値平均：FY16 3Q 570円/kg → FY17 3Q 743円/kg）となったものの、売上高での増収がカバーする形となり、増益となっている。

売上高（百万円）

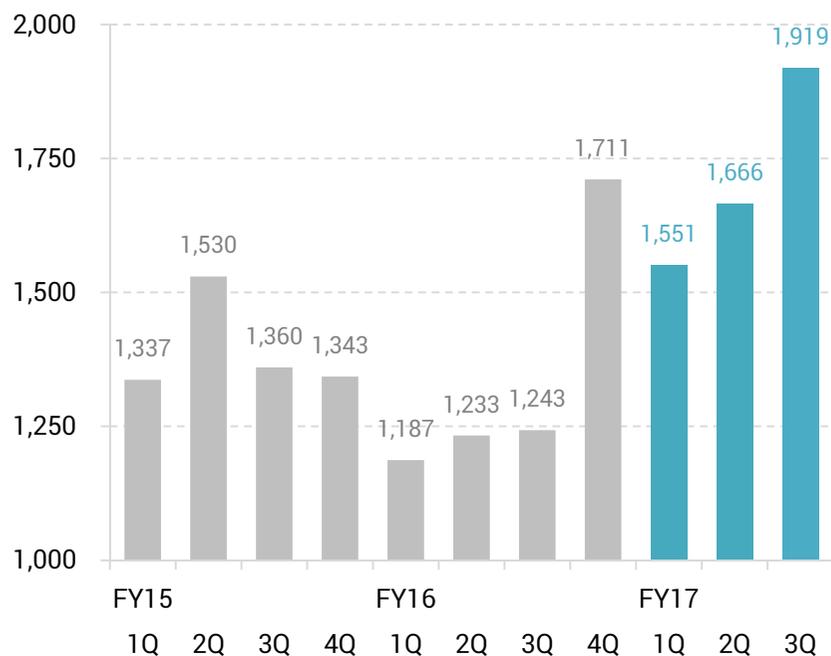


営業利益・利益率（百万円・%）

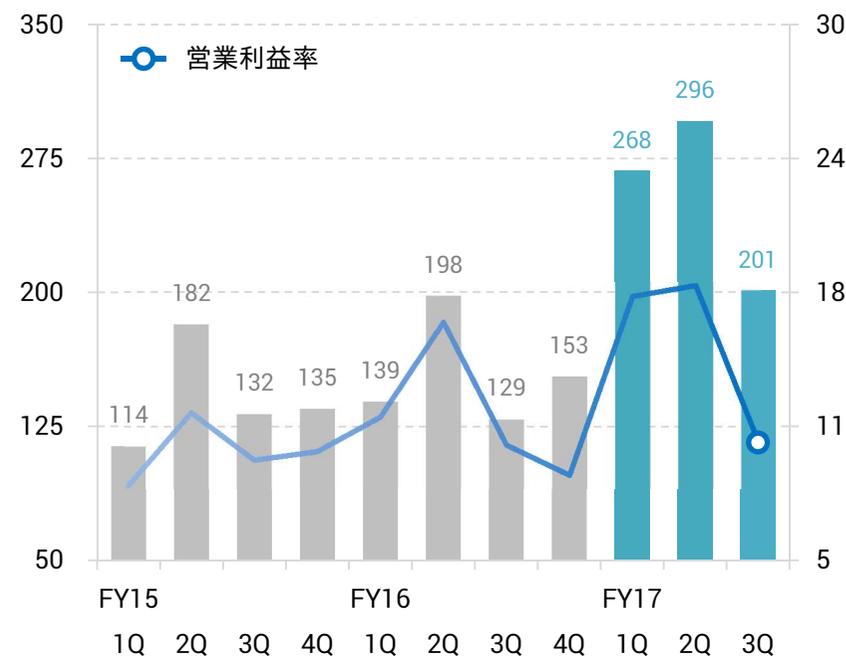


- 売上高は、コンタクトプローブ・ウイスカット等の線材加工品、プリンター等に使用されるフレキシブルフラットケーブルの好調に伴い、大幅な増収となった。
- 営業利益は、売上高での増収や線材加工品の伸長により、連結子会社（インドネシア）での火災による営業損失を補い増益となっている。

売上高（百万円）

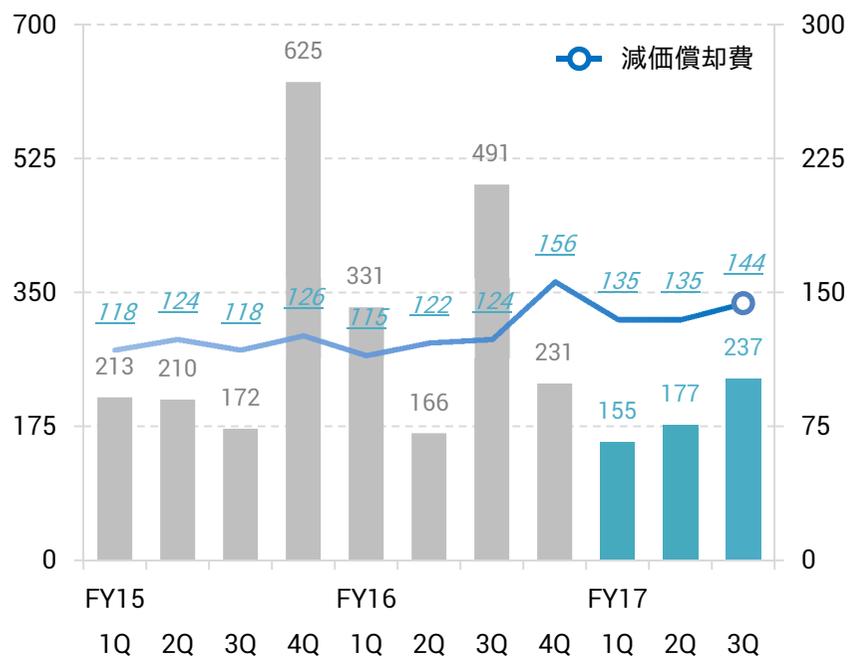


営業利益・利益率（百万円・%）

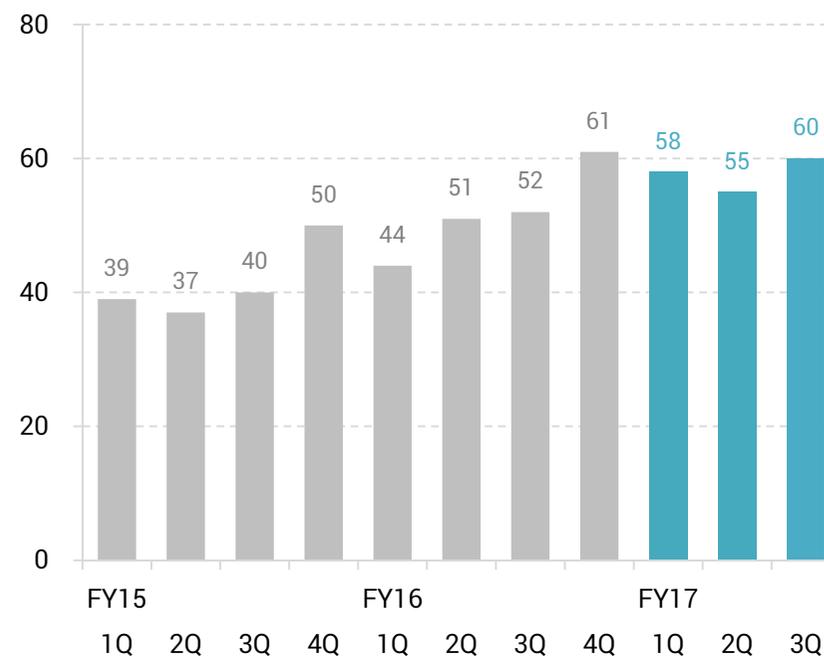


- 設備投資は、569百万円となった。（本体 314百万円、連結子会社 254百万円）
- 研究開発費については、連結子会社での費用が増加している。

設備投資・減価償却費（百万円）



研究開発費（百万円）



3 - 06. 貸借対照表 (数値)

TOTOKU

	FY16	FY17 3Q			
	実績	実績	増減	増減率	増減要因
流動資産	11,752	12,362	+815	+7.1	
現預金・預け金 (※)	5,871	5,818	▲53	▲0.9	
その他	5,674	6,544	+869	+15.3	
固定資産	7,232	7,599	+367	+5.1	
有形・無形固定資産	5,468	5,524	+55	+1.0	
投資その他の資産	1,763	2,075	+312	+17.7	
資産合計	18,778	19,962	+1,183	+6.3	
流動負債	5,803	5,534	▲269	▲4.6	
固定負債	3,350	3,030	▲320	▲9.6	
負債合計	9,154	8,565	▲589	▲6.4	
株主資本	9,375	10,619	+1,244	+13.3	FY07以来10,000百万円台に回復
その他	248	777	+529	+213.3	
純資産合計	9,624	11,397	+1,773	+18.4	
負債純資産合計	18,778	19,962	+1,183	+6.3	
自己資本比率	46.5	52.9	+6.4	—	
有利子負債	2,739	2,478	▲261	▲9.6	
Net 有利子負債	▲3,131	▲3,339	▲208	+6.6	

(単位:百万円・%) ※ 親会社の金融子会社である古河ファイナンス・アンド・ビジネス・サポート(株)に対する預け金を含む